

2016年（平成28年） 10月28日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

10/13～10/19のNYMEX・WTIは、OPEC減産合意後の上昇を受けて、過剰供給解消への期待感と懐疑論が交錯する中、49.94～51.60ドルの範囲で一進一退を続けた。

10月20日は、前日の米国原油在庫減少報告を背景とする大幅な価格上昇による利益確定売りが広がり、反落した。この日が最終取引日となる11月限の終値は前日比1.17ドル安の50.43ドルだった。

週末21日は、ノバク露エネルギー相のサウジ訪問が伝わり、OPEC減産へのロシアの協調期待が高まり、反発した。ただ、ペーカーヒューズ社の米国稼働リグ数(443基、前週比11基増)増加の報告やドル高・ユーロ安の進行に伴う原油の割高感があり、上値を抑えた。この日から期近となった12月限は前日比0.22ドル高の50.85ドルで終了した。

週明け24日は、イラクのルアイビ石油相がイラクを減産の例外とすべきと発言したことが伝わり、OPEC協調減産への懐疑論が強まり、反落した。12月限の終値は前日比0.33ドル安の50.52ドルとなった。

25日は、前日のイラク石油相の発言に加え、翌日発表予定の米国原油在庫が80万バレル増との予想されていること、ドル高・ユーロ安の進行による原油の割高感もあり続落し、6営業日振りに50ドルを割り込んだ。12月限の終値は0.56安の49.96ドルだった。

26日は、EIAの米国石油在庫週報で予想外の原油在庫減少が報告されたものの、ここ数日間のOPEC協調減産への懐疑論の高まりで、3日連続で下落した。12月限は前日比0.78ドル安の49.18ドルで終了した。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(11

月渡し)は、前週48.80～49.70ドルの狭い範囲で推移した。20日は49.60ドル、21日は48.80ドル、24日は49.10ドル、25日は48.80ドル、19日は47.50ドルで推移した。

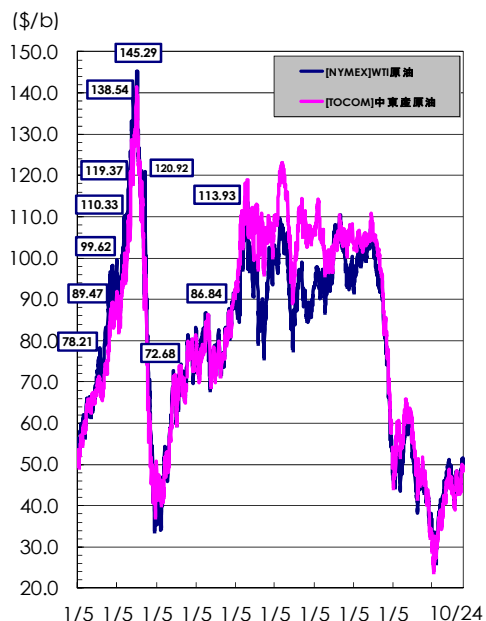
為替は、前週103.75～104.58円と狭い範囲で推移した。20日は103.66円、21日は104.18円、24日は103.88円、25日は104.49円、26日は104.18円で推移した。

財務省が24日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格は、前旬比336円下げの29,168円/kl。ドル建てでは45.25ドルで前旬比0.44ドル安。為替レートは1ドル/102.47円。また、同日の貿易統計速報(月間ベース)によると、9月の原油輸入平均CIF価格は、前月比345円下げの29,147円/kl。ドル建てでは45.49ドルで前月比0.12ドル高。為替レートは1ドル/101.87円。

主要元売会社の11月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は概ね据え置きとなった。OPEC減産合意後5ドル程度値上がりした原油価格は、一進一退を続ける中、やや値上がりし、為替レートも円安となったため、原油調達コストは値上がりだった。

そのような中で、10月24日時点の小売価格は、ガソリンが1.4円値上がりの126.0円、軽油は1.0円値上がりの104.7円、灯油は0.7円値上がりの65.3円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりだった。この週(10月第4週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は全社が1.0～2.0円値上げした。

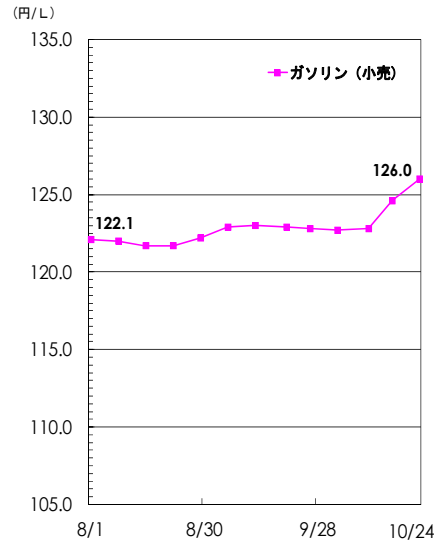
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/16～10/22	3,291 ▼ -15	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.5 ▼ -0.3	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/22	15,158 ▲ 1,460	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/24	49.12 ▲ 0.19	▲ 3.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/24	50.52 ▲ 0.58	▲ 6.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	45.25 ▼ -0.44	▼ -5.99
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	29,168 ▼ -336	▼ -9,827
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	102.47 ▲ 0.19	▲ 18.51
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/24	104.88 ▲ 0.37	▲ 17.26



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/16 ~ 10/22	944 ▼ -22	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	968 ▲ 2	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -5	▼ -	
	在庫	10/22	1,480 ▼ -24	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/18 ~ 10/24	44.3 ▼ -0.6	▼ -5.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/18 ~ 10/24	44.1 ▼ -0.1	▼ -4.2
		(TOCOM/中部)	10/24	43.5 ▼ -0.2	▼ -5.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/24	126.0 ▲ 1.4	▼ -7.7	

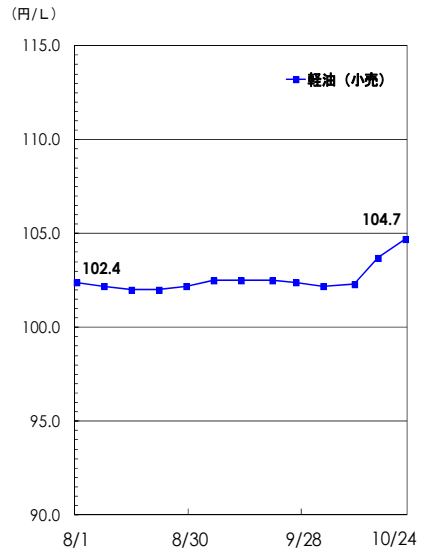
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

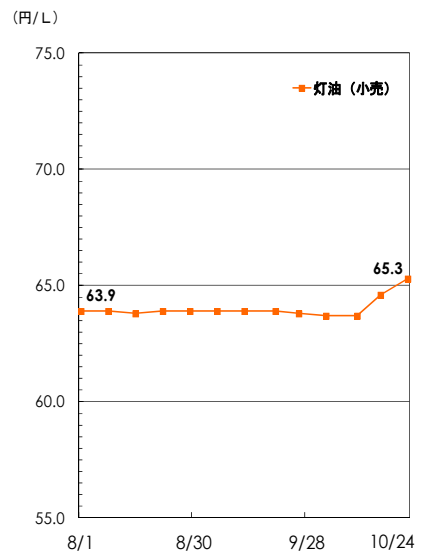
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/16 ~ 10/22	759 ▲ 66	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	651 ▲ 8	▲ -	
	輸出	"	50 ▼ -61	▼ -	
	在庫	10/22	1,470 ▲ 58	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/18 ~ 10/24	41.4 ▲ 0.3	▼ -3.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/18 ~ 10/24	41.0 → 0.0	▼ -3.3
		(TOCOM/中部)	10/24	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/24	104.7 ▲ 1.0	▼ -7.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/16 ~ 10/22	203 ▼ -35	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	223 ▼ -9	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -46	→ -	
	在庫	10/22	2,816 ▼ -20	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/18 ~ 10/24	41.6 ▲ 0.4	▼ -6.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/18 ~ 10/24	44.6 ▲ 0.5	▼ -3.6
		(TOCOM/中部)	10/24	43.9 ▲ 0.5	▼ -4.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/24	65.3 ▲ 0.7	▼ -12.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

26日のNYMEX市場のWTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週間在庫統計で、原油在庫が前週比60万バレル減と事前の市場予想(同170万バレル増)に反して減少、ガソリン・中間留分の在庫も減少したものの、イラン・リビア・ナイジェリア・イラクの増産志向の表面化、ロシアの減産への消極姿勢(増産凍結)など、ここ数日間の供給過剰解消へ懐疑的な見方の高まりの中で、3日連続で下落した。12月限の終値は前日比0.78ドル安の49.18ドル、12月限の終値は前日比0.77ドル安の49.83ドルだった。

EIAによると10月24日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比1.4セント値下がりの1ガロン2.243ドル(62.1円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.3セント値下がりの2.478ドル(68.6円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油は4週振りの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月16日～22日に休止したトッパー能力は、62.0万バレル/日と前週に比べて4.4万バレル増加。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は329.1万klと、前週に比べ1.5万kl減少。前年に対しては8.0万klの減少。トッパー稼働率は77.5%と前週に対して0.3ポイントの減少、前年に対しては0.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.3%減、ジェット/4.0%減、灯油/14.8%減、軽油/9.5%増、A重油/13.0%増、C重油/5.6%減。今週のC重油の輸入は2.1万kl(前週比4.7万kl減)。軽油の輸出は5.0万kl(前週比6.1万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではC重油のみが減少し、その他の油種で増加した。原油価格の値上がりが続ぎ、小売価格は3週連続で値上がりとなる中、ガソリンの出荷は96.8万kl(対前週0.2%増)と2週振りで前週比で増加、4週連続で前年比で増加となり、7週連続で100万klを割った。

ジェット13.7万kl(対前週7.2%増)、灯油22.3万kl(対前週3.7%減)、軽油65.1万kl(対前週1.3%増)、A重油21.5万kl(対前週14.5%増)、C重油22.6万kl(対前週1.3%減)。

(単位:千KL)

	今週 (10/16 ~ 10/22)	前週 (10/9 ~ 10/15)	前週比	
ガソリン	968	966	▲ 2	(0%)
ジェット燃料	137	128	▲ 9	(7%)
灯油	223	232	▼ -9	(-4%)
軽油	651	643	▲ 8	(1%)
A重油	215	188	▲ 27	(14%)
C重油	226	229	▼ -3	(-1%)
合計	2,420	2,386	▲ 34	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月22日時点の在庫は軽油、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはすべての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは148.0万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては16.6万kl少ない。

灯油は281.6万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては9.8万kl少ない。

軽油は147.0万kl、前週差5.8万kl増。前年に対しては11.8万kl少ない。

A重油は73.5万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては5.2万kl少ない。

C重油は192.6万kl、前週差11.3万kl減。前年に対しては34.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (10/22)	前週 (10/15)	前週比	
ガソリン	1,480	1,504	▼ -24	(-2%)
ジェット燃料	989	1,046	▼ -57	(-5%)
灯油	2,816	2,836	▼ -20	(-1%)
軽油	1,470	1,412	▲ 58	(4%)
A重油	735	718	▲ 17	(2%)
C重油	1,926	2,039	▼ -113	(-6%)
合計	9,416	9,555	▼ -139	(-1.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月18日から10月24日までの原油コストは、原油価格は値下がり、為替レートは円高で、原油コストは小幅な値下がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン97～98円台、軽油41円台、灯油41円台でやや軟調に推移した。海上スポット価格は、ガソリン97～99円台、軽油41～42円台、灯油44～45円台で灯油が値上がりした半面ガソリンは値下がりした。先物価格はガソリン97～98円台、軽油41円台、灯油44～45円台で灯油を除きほぼ横ばいである。元売の卸価格は1.5円の値下がりから1.0円の値上がりだった。

EMGマーケティングは10月27日、10月29日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、ガソリンは据え置き、それ以外の油種は1.0円の引き上げ。さらに11月1日からはガソリンを2.0円、それ以外の油種は3.0円引き上げる旨を通じた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストが値上がりし、卸価格も引き上げられたことから、製品スポット市況は堅調となった。週間のガソリン販売量は、7週連続で100万klを下回った。

11月第1週(10月27日～11月2日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月18日～10月24日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.6円の値下がり、灯油は0.4円、軽油は0.3円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円、軽油は0.5円の値下がり、灯油は1.8円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.1円の値下がり、灯油が0.5円の値上がり、軽油が横ばいだった。OPECの減産に対するやや懐疑的な見方が広がり、原油価格は値下がり、円高による原油コストの値下がりもあって、製品スポット価格も軟化した。

11月第1週の大手元売の卸価格は、ほぼ横ばいだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (10/18 ~ 10/24)	前週 (10/11 ~ 10/17)	前週比
スポット価格	レギュラー	44.3	44.9	▼ -0.6
	灯油	41.6	41.2	▲ 0.4
	軽油	41.4	41.1	▲ 0.3
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (10/18 ~ 10/24)	前週 (10/11 ~ 10/17)	前週比
先物価格	レギュラー	44.1	44.2	▼ -0.1
	灯油	44.6	44.1	▲ 0.5
	軽油	41.0	41.0	➡ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/18～10/24実績値)		(単位: 円/%)	
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -0.6	▼ -0.1	▼ -0.4
灯油	▲ 0.4	▲ 0.5	▲ 0.4
軽油	▲ 0.3	➡ 0.0	▲ 0.1
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月24日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.4円値上がりの126.0円、軽油は前週比1.0円値上がりの104.7円、灯油は前週比0.7円値上がりの65.3円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油も3週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりとなった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは45都道府県、横ばいは2県、値下がりはない。都道府県別のガソリンの全国最安値は、埼玉県(121.5円(前週比2.4円高))、次が千葉県(122.2円(前週比1.4円高))だった。最高値は長崎県の134.4円(同1.8円高)だった。都道府県別で最も値上がりしたの

りしたのは、前週比2.9円高の滋賀県(127.5円)と山形県(127.2円)で、値下がりしたところはなかった。

原油コストは値上がりし、3週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の元売会社の卸価格は概ね据え置いた。原油価格はやや値下がりし、為替レートもやや円高で、原油コストはやや値上がりとなったが、前週までの卸価格の浸透が続くことから、次週の小売価格は、小幅な値上がりが見られる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)				
		今週 (10/24)	前週 (10/17)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	126.0	124.6	▲ 1.4	08/8/4	185.1
	灯油	65.3	64.6	▲ 0.7	08/8/11	132.1
	軽油	104.7	103.7	▲ 1.0	08/8/4	167.4

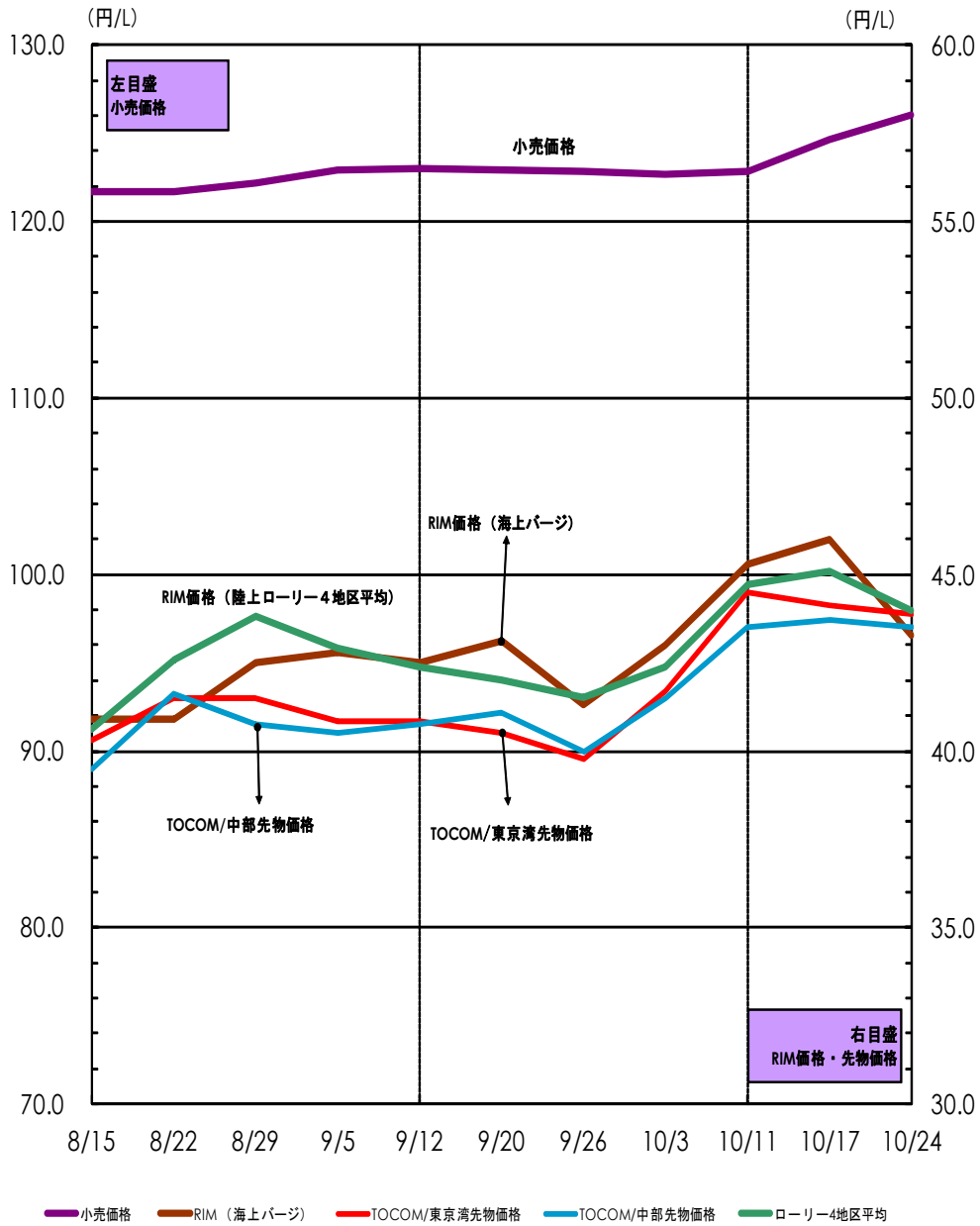
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/8/15 ~ 2016/10/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第30号)の公表は、11/4(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年3月末現在)は、8月3日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。